

取場の怒りに追いつめられたコロビ屋・嶋田



81.8.3
No. 811

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五(六)公衆(電吉)二七二〇七

☆☆☆☆☆☆☆☆

動労千葉津田沼支部は、七月十五日以降、権力・革マル反動分子一体となった組織破壊
一不当弾圧攻撃に対し、まさに全組合員が活動家となつて、支部を防衛し、連日の救援
・家族対策・激励行動に、怒りの総決起をかちとってきた。そして六名の仲間を完黙のま
ま、ついに七月三十一日奪還したのである。こうした津田沼支部をはじめとした動労千葉
千三百の反撃の前に、コロビ屋・タレコミの元凶、革マル嶋田誠は、去る七月二十九日、半
日姿を現わしたのみで、またまた休んでいる。
「重傷でうなづけているはずが
海水浴？」

七月二十九日八時すぎ、電車区裏口より、コロビ
屋嶋田誠が姿を現わした。
それよりわずか前、例によって区長を先頭に、
局課員・現場職制が職場にはいかに。

検修の多くの仲間から、コロビ屋・タレコミの
元凶・嶋田に対し、怒りの抗議の声があがったこ
とはいうまでもない。そして更衣中、ロッカー室
に居合せた検修の仲間は、更衣中の嶋田に海水パ
ンツのま新しい日焼け跡がクッキリと残っている
という異様な姿を見たのである。

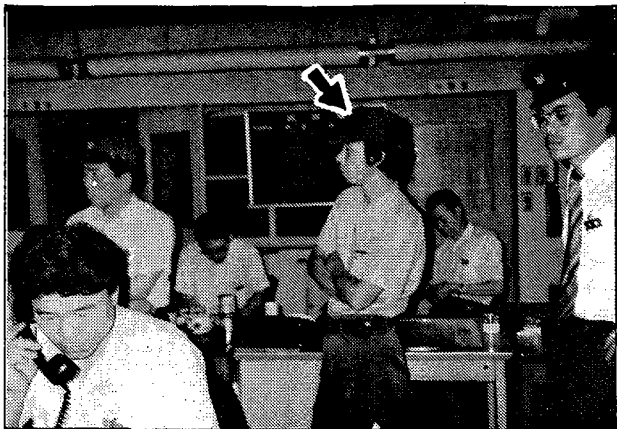
「入院し、酸素吸入器を使い、肋骨ブラブラ：
」という全国大会での斎藤吉司の発言とは全く
裏腹に「重傷で入院しているはずのものが、海水パ
ンツの跡とは、まさに開いた口がふさがらないと
はこのことだ。これこそデッチ上げ事件の張本人
コロビ屋・嶋田誠の正体なのだ。

毅然とした反撃で 挑発策動を完全に粉碎

出勤するやコロビ屋嶋田誠は、「勤務の厳正」
よろしく当局掲示板を見た後、検修事務室へ入っ
たまま、姿を見せなかった。

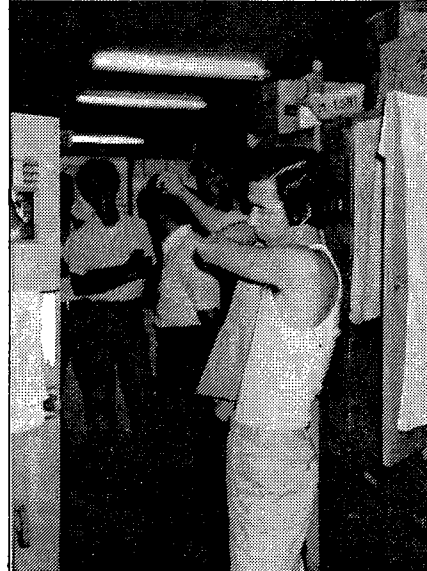
検修の仲間の怒りの前では、身を小さくして、
当局がいるときは、強がり、まさに当局親衛隊と
しての「本部」反動分子デッチ上げ告訴・タレ
コミの張本人にふさわしい態度なのだ。

この日、コロビ屋嶋田誠は、ただひとつ第二の
デッチ上げ↓告訴を策し、コロビ屋・タレコミ屋
としての任務を遂行するためのみ姿を現わした
のだ。



しかしこのような卑劣
極まる策動に対し、動労
千葉・国労組合員仲間の
毅然とした糾弾と反撃の
闘いの前に、三時間あま
りですごすと退散して
いった。
この後、当局へ三十日
以降休むことを申し入れ
て今もって出勤していな
いのだ。
↑何かあるとすぐ「助役さん
と、助役管理者の部屋に並まつ
き、たれ込むマル生分子嶋田

「行った、嶋田、お前、海水浴で遊んで
たんか!?!」……取場の仲間に、海水パ
ンツの日焼け跡を発見され、糾弾されて、真
赤にうなづいて居る嶋田。(7月29日)



☆☆☆☆☆☆☆☆

「本部」反動分子一掃、動労大改革へ！
六名の仲間を完黙のまま奪還した、津田沼支部
を先頭とする千三百の文字通りの総決起は、同時
に、闘う労働者を権力に売り渡し、動労千葉破壊
を意図した目論見とは全く裏腹に、着実に彼ら反
動分子を追いつめている。

動労千葉の闘いの中で、仙台・盛岡帰任者のA
Bは、「動労を脱退する」表明を行っており、津
田沼のCは、「国鉄をやめる」といい出し、津田
沼の短期転勤者は、言葉もないほどうちひしがれ
ている。

一方、結成間もない銚子支部でも、動労千葉へ
の結集が着実に闘いとられていく。
全組合員のみならず。
わが動労千葉は一つ一つの試練を乗り越え、着
実に八〇年代に通用する自前の労働運動の前進を
かちとってきている。さらに、反動分子一掃、動
労大改革に向け、力強く前進してゆこう。

銚子支部乗務員分科会結成される

六月二十九日、結成をかちとつた銚子支部は、七
月三十日、午後一時より乗務員分科会結成総会を
開催した。

本部乗務員分科会安田事務長を来賓に迎えて行
われた総会は、経過と当面する組織、財政方針、
規約などを全体で確認し、役員を選出し成功裡の
うちに終了した。

◇ 選出された役員は以下のとおり。

- 会長 伊藤 隆 三十四才
- 副会長 牧野輝夫 五十才
- 事務局長 菅谷省平 三十八才
- 委員 上野孝治 三十三才
- 高橋昭雄 三十九才 (本部委員)
- 菅谷達史 四十二才
- 伊藤敏雄 四十二才
- 会計監査 鈴木政男 小林茂男
- ダイヤ検討委員 本網 香 山田 悟